

## K市における発達障害児の母親への育児支援 - 参加者のニーズ調査 -

竹澤 大史\*・幸 順子

### Parenting Support Services for Mothers of Children with Developmental Disabilities in K City - Parent Needs Survey -

Taishi TAKEZAWA and Junko YUKI

#### 問題と目的

学習障害 (LD) や注意欠陥多動性障害 (ADHD)、高機能広汎性発達障害 (HFPDD) など、いわゆる発達障害のある子どもは、市町村が実施する乳幼児健康診査ではその特徴が発見されない、或いは発見が遅れるケースが多い。一方、健康診査で発達の遅れや問題を指摘されても、発達障害を診断できる医師や医療機関の数が全国的に不足しているため、初診までに数カ月から半年間待たなければならぬ状況である。また障害の発見から療育への移行システムが整備されていない市町村も多く、診断告知後、直ちに療育が始まる訳ではない。その間適切な支援がなされなければ、母親は育児における不安やストレスを抱えることになる (山根, 2010) <sup>1)</sup>。

A県K市は、育児支援について関係機関の連携を深めるため、平成14年度から育児に困難を抱えている母親への支援を目的とした「子育て教室」を開始した。月に1回程度のプログラムで、当初はダウン症や脳性まひ、広汎性発達障害などがある子どもの母親を対象としていたが、平成19年頃から広汎性発達障害のある子どもの母親が多く参加するようになった。教室では、保育士や保健師、大学教員・研究者 (筆者ら) などのスタッフが、診断前や告知後間もない時期の母親の揺れ動く気持ちを受け止め、育児に関する情報や助言を提供している (峯村, 2004) <sup>2)</sup>。また、母親同士が育児の不安や悩みを話し合う機会を重視し、互いに支え合う関係づくりを支援している。平成20年頃から、子どもの就学後も引き続き参加する母親が増え、話し合いの中で子育てのコツや子どもの近い将来の姿を伝える役割を果たしている。

本研究では、K市の「子育て教室」のプログラムを評価するため、アンケート調査により参加者のニーズを明らかにし、発達障害児の母親への育児支援の今後の方向性を探ることを目的とする。

#### 方法

##### 参加者

K市が主催する子育て教室の参加者で、33~41歳の母親13名 (平均37.08歳)。子育て教室への参加頻度は、1年平均4.76回 (全9回中) で、0~3回は6名、4~6回は4名、7~9回

---

\* 愛知県心身障害者コロニー

は3名だった。子どもの年齢は4～9歳(平均6.54歳)で、男女比は12:1。所属施設は幼稚園2名、小学校11名。各医療機関で得られた診断名は、自閉症2名、アスペルガー症候群2名、広汎性発達障害6名、不明1名、記載なし2名だった。

### 調査期間

平成21年8月から22年3月まで。

### 手続きと調査内容

平成20年度の参加者リストに名前がある母親30名に、アンケート用紙を手渡し又は送付した。

1. 教室の内容、2. スタッフ、3. 他の参加者、4. 会場について、「良かったこと」、「期待したいこと」を、それぞれ自由記述で回答してもらった。また、5. 今後の教室について、自由記述で回答してもらった。(末尾付表参照)

### 分析

各質問項目への回答を共通する意見内容ごとにまとめた。

## 結果

アンケート用紙の発送数は30で、回収数は13、有効回答率は43.3%だった。アンケートの各質問への回答内容のうち、重複して多く出現したものをまとめ、質問項目ごとに3～4の回答内容カテゴリーに分類した。以下の記述の括弧内の%は、質問項目の「良かったこと」・「期待したいこと」別に表記した。件数の少ない回答については、同一カテゴリーにまとめることができなかつたため、%に反映されず、それぞれ合計100%未満の表示となっている。また表1～5に、各回答内容カテゴリーにおける典型的な例を示した。

### 1. 子育て教室の「内容について」

#### (1) 良かったこと

- ①「育児についての助言・情報」(8件, 61.5%)：専門家や育児の先輩である他の母親から、子どもへの接し方や就学の準備、学校生活の様子を聞けること。
- ②「不安や悩みの共有」(4件, 30.8%)：自分の子どもと同じ特徴をもった子どもの母親と不安や悩みを共有できること。

#### (2) 期待したいこと

「子育て教室への提案」(6件, 46.2%)：よりよい教室にするための提案や自分と同じ状況にある母親への配慮など。

表1 内容について

回答内容	回答例
(1)① 育児についての助言・情報 (8件)	・先輩が多いので、小学校入学時の手続き等のコツを聞いた。 ・先生方のお話がとても参考になった。一人ひとりの意見や相談を聞いてくれた。
(1)② 不安や悩みの共有 (4件)	・自分だけが悩んでいる訳ではないということが分かり、他の方の悩みや困っていることに共感できた。
(2) 子育て教室への提案 (6件)	・ベテランの母親が、初めて診断を受けた母親をフォローして欲しい。

## 2. 子育て教室の「スタッフについて」

### (1) 良かったこと

- ①「参加者への配慮」(9件, 69.2%)：参加者一人ひとりに対する心配りがあること。
- ②「専門家からの助言」(3件, 23.1%)：専門家にじっくり話を聞いてもらい、助言をもらえること。

### (2) 期待したいこと

- ①「プログラムの進め方についての提案」(2件, 15.4%)：スタッフによる進行についての提案。
- ②「スタッフとの交流」(2件, 15.4%)：文書の交換や座談会など、教室外でのスタッフとの交流を望む声。

表2 スタッフについて

回答内容	回答例
(1)① 参加者への配慮 (9件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に心配して、連絡をくれた。</li> <li>・参加者全員に同じ様に声をかけているので安心した。</li> <li>・見守ってくれて感謝している。</li> </ul>
(1)② 専門家からの助言 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じような悩みも一つ一つ丁寧に聞いて、助言してくれるのでありがたい。</li> <li>・親がどんな視点で子どもを見れば良いか、教えてもらえるので良かった。</li> </ul>
(2)① プログラムの進め方についての提案 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が少しでも発言できるよう工夫して欲しい。</li> </ul>
(2)② スタッフとの交流 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフとの座談会を開きたい。</li> </ul>

## 3. 子育て教室の「参加者（他の母親）について」

### (1) 良かったこと

- ①「他の母親との共感」(5件, 38.46%)：自分の子と同じ様な特徴や、全く違った特徴のある子どもの話を聞けること。
- ②「他の母親からの助言・情報」(4件, 30.8%)：育児の先輩から、子育てのコツや学校の様子などが聞けること。
- ③「他の母親との出会い」(2件, 15.4%)：同学年や近所の母親と知り合いになれること。

### (2) 期待したいこと

「母親への支援に関する提案」(4件, 30.8%)：同じ悩みや不安を抱える母親への支援に関する提案。

表3 参加者（他の母親）について

回答内容	回答例
(1)① 他の母親との共感 (5件)	・自分と同じ悩みをもつ母親に出会えた。気持ちが楽になった。
(1)② 他の母親からの助 言・情報 (4件)	・先輩ママさんの話はとても参考になった。
(1)③ 他の母親との出 会い (2件)	・同じ小学校区の母親と知り合いになれてとても良かった。
(2) 母親への支援に関 する提案 (4件)	・今は自分の子どものことで精一杯だが、色々話し合っ て子ども達が住みやすい地域にしていければ良いと思う。

#### 4. 子育て教室の「会場について」

##### (1) 良かったこと

- ①「託児サービス」(5件, 38.5%)：託児ボランティアが子どもを近くで見守ってくれるので、安心して話ができること。
- ②「通いやすい距離」(4件, 30.8%)：家から会場までの距離が近く、通いやすいこと。
- ③「安心して通える場所」(2件, 15.4%)：健康診査で知っていたので、安心できること。

##### (2) 期待したいこと

「会場についての提案」(2件, 15.4%)：参加者同士が自由に交流できる場所についての提案。

表4 会場について

回答内容	回答例
(1)① 託児サービス (5件)	・子どもを見てくれるボランティアさんがいて助かる。 下の子も連れて行けるのが良い。
(1)② 通いやすい距離 (4件)	・割と近いので通いやすい。
(1)③ 安心して通える 場所 (2件)	・健診などでよく利用していたので、安心できる。
(2) 会場についての 提案 (2件)	・「子育て教室」が終わった後、参加者同士で話し合える場所が 欲しい。

#### 5. 「今後の子育て教室について」

- (1)「グループ分けに関する提案」(6件, 46.2%)
- (2)「新たなグループ設立の提案」(2件, 15.4%)
- (3)「他の参加者と知り合いになるための機会づくりに関する提案」(2件, 15.4%)
- (4)「行政への働きかけの提案」(1件, 7.7%)

表5 今後の子育て教室について

回答内容	回答例
(1) グループ分けに関する提案（6件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園、幼稚園のグループだけでなく、小学校のグループも作って欲しい。</li> <li>・ もっと子どもの年齢が上の親の話が聞ける会があれば良いと思う。</li> <li>・ 子どもが同年齢のグループ、近所のグループなどで分けてあると、教室以外でも他の参加者と仲良くなれそう。</li> </ul>
(2) 新たなグループ設立の提案（2件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年に1～2回ぐらい、大きくなった子どもを連れて集まりたい。</li> <li>・ O G会があったら参加したい。</li> </ul>
他の参加者と知り合いになるための機会づくりに関する提案（2件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2～3人でのフリートークの時間など、他の参加者と親密になる機会を作って欲しい。</li> </ul>
(4) 行政への働きかけの提案（1件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子育て教室」のノウハウを活かして、K市として、発達障害のある子どもと母親のための通園施設等を充実させて欲しい。</li> </ul>

## 考 察

### 1. 子育て教室の内容について

多くの参加者が、育児についての相談や情報交換ができることや、同じ立場にある母親と育児に関する不安や悩みを共有できる点を評価していることが分かった。また診断を受けて間もない母親のフォローなど、発達障害のある子どもの母親への支援の充実を求めていることが分かった。より良い教室にするための提案が多く寄せられた。

### 2. スタッフについて

スタッフによる参加者一人ひとりへの配慮や、スタッフが母親に寄り添う姿勢が多く評価された。子どもの発達に関する知識や育児のコツなどを教えてくれることなどについても、肯定的な意見がみられた。

### 3. 他の参加者について

多くの参加者が、同じ悩みをもつ母親と共感できることや、育児の先輩である母親からの助言が得られることなどを評価していることが分かった。また子育て教室の内容と同様、自分と同じ状況にある他の母親への支援の充実を求めていることが分かった。

### 4. 教室の場所について

託児サービスがあることや、近くで通いやすいといった意見が多くみられたことから、参加者が利便性や安心感を重視していることが分かった。

以上のことから、多くの参加者が、育児についての知識や助言に加え、身近な地域の中で他の母親と共感し支え合う経験やスタッフが母親に寄り添う姿勢を評価していることが分かった。

### 5. 教室の今後について

子どもの年齢や地域、テーマによるグループ分けについての意見、特に学齢期の相談ができるグループを要望する意見が多くみられた。この結果を受け、平成22年度より、学齢期の子

もの母親を中心とした自主サークルが立ち上げられた。

これまで市町村によって様々な形態の育児支援サービスが提供されてきたが、専門家主導によるアプローチのみでは、障害のある子どもの母親の不安やストレスを軽減することは難しい(後藤ら, 2010)<sup>3)</sup>。特に発達障害のある子どもの母親のニーズを満たすためには、不安な気持ちや悩みを共有し互いにエンパワーされた母親が、更に今度は支援者として他の母親をエンパワーするような循環型の支援環境を整備していく必要がある。

### Abstract

Families of young children with developmental disabilities need special parenting support even before their children have been diagnosed. Specifically, mothers tend to have a great deal of parenting anxiety and stress unless they receive appropriate parenting supports in their community. The purpose of this study was to investigate the needs of mothers who participated in the "Parenting School" run by K city. The results revealed that many mothers wanted more opportunities to exchange information on disability and parenting, share their worries on parenting, and sympathize with each other.

### 謝 辞

本研究の調査にご協力下さいました子育て教室の参加者及びスタッフの皆様に、心よりお礼を申し上げます。

### 文 献

1. 山根隆宏. (2010). 高機能広汎性発達障害児をもつ母親の診断告知時の感情体験－診断告知に至る状況との関連－. 神戸大学大学院人間発達環境科研究紀要, 3 (2), 27-36.
2. 峯村芳樹. (2004). 地域子育て支援における支援者のコンペテンシーに関する研究. 平成16年度児童関連サービス調査研究等事業報告書.
3. 後藤慶子・三隅輝見子・清水康夫・岩佐光章・今井美保. (2010). 自閉症スペクトラムの早期介入における子育て支援の役割－支援の視点と技術システムと－. 日本発達心理学会第21回大会発表論文集, 679.

付表 調査用紙の構成

子育て教室 アンケート

いつも子育て教室にご参加いただきましてありがとうございます。子育て教室をより良いものにしていくため、皆様のご意見を伺って、今後の参考にさせていただきたいと思います。お手数をおかけしまして誠に申し訳ありませんが、ご協力いただきますようお願いいたします。

1. あなたの年齢 \_\_\_\_\_ 歳
2. お子さんの年齢・性別 \_\_\_\_\_ 歳 男 ・ 女
3. お子さんが通っている施設 保育園・幼稚園・通園施設 その他 ( \_\_\_\_\_ )
4. お子さんの診断名： \_\_\_\_\_ (医療機関名： \_\_\_\_\_ 年 月ごろ)
5. 子育て教室の利用頻度 1年に \_\_\_\_\_ 回ぐらい

子育て教室についての感想をお聞かせください。ご自由にお書きください。

内容について

良かったこと

[ \_\_\_\_\_ ]

期待したいこと

[ \_\_\_\_\_ ]

スタッフについて

良かったこと

[ \_\_\_\_\_ ]

期待したいこと

[ \_\_\_\_\_ ]

参加者（他のお母さん）について

良かったこと

[ ]

期待したいこと

[ ]

会場について

良かったこと

[ ]

期待したいこと

[ ]

今後の子育て教室について

例えば「今までと同じようなグループで話し合いたい」、「卒業生（OG）の自主グループを作りたい」など、ご意見がありましたらお願いいたします。

[ ]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

差し支えなければお名前をご記入ください。

お名前： \_\_\_\_\_